

北海道研会報

北海道道德教育研究会

第 176 号

発行所：北海道道德教育研究会
 事務局：〒004-0811
 札幌市清田美しが丘 1 条 1 丁目 2
 札幌市立真栄中学校
 TEL 011-884-6561 FAX 011-884-9485
 発行人：田 村 明 人
 編集人：三 上 寛 晃

授業検討会、全道学習会がありました。

7 月 30 日 (火) に旭川市立緑が丘小学校にて、全道大会「上川・旭川大会」に向けた授業検討会が行われました。まず、始めに全道大会における小学校の授業者から指導案、児童の実態、今困っていることをお話しいただき、ブロックに分かれて話し合いを行いました。どの指導案や資料にも、授業者の思いが込められているとともに、十分な時間がかけられていて、参加された先生方が率直に意見を出し合い、熱意のこもった話し合いになりました。

その後、井上調査官より御講評をいただき、小学校、中学校における研究の進め方や一つ一つの授業について、たくさんの御示唆をいただきました。そのため、授業者や授業者を支える周りの運営側もとても心が軽くなり、全道大会への思いを改めて強くすることができました。

午後には、全道学習会が行われました。本研究会の田村会長（札幌市立八軒西小学校長）の挨拶の後、全道大会運営委員長である上道研の内藤会長（旭川市立緑が丘小学校長）より御挨拶をいただきました。

その後、北海道研研究部長の奥山先生（札幌市立向陵中学校）より研究主題「自己理解を深め、よりよい生き方を自ら考える続ける児童・生徒の育成」について説明がありました。研究主題のキーワードは「自己理解」と「よりよい生き方を自ら考える続ける」で、「自己理解」とは、自分との関わりで道徳的価値を捉えることであり、「よりよい生き方を自ら考える続ける」とは道徳的価値を自分なりに発展させていくことへの思いや課題をもち、どう生きるべきかを考えるづけることであると説明がありました。

その後、上川支部からの全道大会に向けた研究についてや各支部からの活動報告がありました。続いて、上川支部の研究副主題について上道研・研究部長の伊藤陽子先生（旭川市立正和小学校）より、次のような説明がありました。

今回の全道大会における研究副主題は、「ともに学び、生き方をひろげる道徳教育の推進」であり、「ともに」には、自分との関わりで考えたことや思いを「共に」伝え合うことと、「友」達の考えから多様な考え方や感じ方と出会い、自分の考えと比較して考えを再構築していくことの二つの意味が込められていること。そして、教材、他者、自分と向き合うことを大切に研究を行っていること。したがって、全道大会では、どの地域でも実践が可能なのようにと考え、学年別の授業公開以外にも複式学級の授業公開も含まれているとのことでした。

授業検討会の様子



全道学習会の様子



「道徳科の授業の充実に向けて」

講師

文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官

国立教育政策研究所教育課程研究センター研究開発部教育課程調査官

井上 結香子 氏



全道学習会の後、井上結香子調査官から、「道徳科の授業の充実に向けて」、具体例を交えて、以下の内容の御講演いただきました。

指導要領の前文にあるよう、変化してきている社会に対応する子どもを育てるために知・徳・体を一体で育むことが大切であり、道徳教育は「徳」を育てる側面がある。そして、よりよく育むためには、個に応じた指導や個別最適な学び、協同的な学び、ICTの活用が効果的である。

道徳の授業では、道徳性を養うことが目的であり、内面的資質である諸様相を育むことで、道徳性が養われる。この諸様相を育むためには、内容項目が大切であり、その授業で育む内容項目を明確にして授業を構想していくことが大切である。そして、教師が、ねらいや何を学ばせたいかを明確にし、指導していくことで、より道徳性が育まれる。また、授業を構想する際には中心発問も大切であり、子どもが自然と考えたくなったり、考えざるを得ない発問を考えたりすると授業もよくなる。これらについては、文部科学省 HP の道徳教育アーカイブに考えるヒントがある。

さらに、ICTの活用については、テキストマイニングや思考ツール、チャットの活用だけでなく、各活動にスプレッドシートを活用した例がある。ICTを活用すると、データを長く保存しておけるので、子どもが長い期間テーマを持って考え続けることができる。また、板書を学校全体で共有したり、保護者を巻き込むことも容易になったりするなど、ICTの利点はたくさんある。

また、道徳の年間指導計画の見直しも大切である。年間指導計画の見直しを行い、重点項目や教材などを自校の子どもたちに合わせて考え直し、年間指導計画の自校化を行うことが大切である。また、決めたものは安易に変更せず、しっかりと話し合い実行していくことも大切である。

このように、たくさんの御教示をいただいた後、多くの質問に御回答をいただきました。明日からの道徳の授業に生かせる、大変実りの多い講演会となりました。